

パブリックコメントの結果について

募集期間：平成30年2月9日～平成30年3月9日

応募件数：1件

1名の方から延べ1件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	検討	反映困難	その他	合計
0件	0件	1件	0件	0件	1件

【文章修正等】・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

【記述済み】・・・既に記述済みのもの。

【検討】・・・計画の実施段階で検討または対応すべきもの。

【反映困難】・・・反映が困難なもの。

【その他】・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

提出された意見等の詳細及び回答

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
1	図書館へ 持参	市内に住 所がある 人	<p>P351 弘前デザインウィーク推進事業</p> <p>人材育成事業⇒全ての弘前の地元住民(あらゆる世代)をボランティアスタッフでなく、時給(青森県最低賃金)支給で仕事として意欲。</p> <p>そのために、桜祭期間内と同じく有料化。例えば、りんごアート、クリスマスマーケット、城フェスなども、昨年度の岩木山総合運動公園のCross.S×Flash(1500円入場料、弘前青年会議所主催)の如く有料化。</p> <p>国民年金・生活保護などの地元住民も賃金あるなら積極的にスタッフ参加。</p> <p>いわゆるAI、IT、ICT、ネット等の最新技術活用したら、その活用、使い方、仕事内容が簡易に。やる気のある方々を雇用の場合、可能性あります(津軽全域活性化)、技術革新→仕事簡素化→たくさんの方々活躍/りんごAIと同じ考え方ですね。</p> <p>地元住民、高齢者も桜祭みたいな好評化あれば、有料化も納得/雇用は人口の多い高齢者も。仕事無い20~60歳も。</p>	<p>弘前デザインウィークでは、「人材育成」、「新たな商品・観光コンテンツ開発」及び「積極的な情報発信」の3つの柱に基づき、様々な事業を実施しておりますが、事業の実施にあたっては、将来を担う人材の育成や地元クリエイターの育成に配慮しながら事業を展開しております。</p> <p>これは、人口減少社会の中、外的要因などに左右されない「持続可能なまちづくり」を目指していくためには、新たな発想で、その地域産業を支える人材の育成が重要であると考えたものです。</p> <p>地域経済の一端を担う地元クリエイターが、国内外で活躍するクリエイターと連携して、新しい商品や観光コンテンツを開発することで、観光客の増加や観光消費額の拡大が図られることに加え、新たな産業や既存産業を支える地元の人材が、そのノウハウを吸収し、地元で自立して活動することで、地域経済の活性化による持続的なまちの成長につなげるという好循環を目指すものであります。</p> <p>イベントなどの事業運営については、ボランティアスタッフによる運営体制ではなく、事業を受託した事業者や事業の主催団体等のスタッフが業務として従事して運営しているものであり、ボランティアスタッフのみで実施していません。</p>

				<p>イベントの事業内容によっては、受託業者のスタッフに加え、市民がボランティアとして参加しているものがありますが、これは事業運営への従事を主目的としたものではなく、「応援サポーター」として自主的に参加いただくことで、弘前への郷土愛を育んでもらおうという視点から広く募集しているものであります。</p> <p>各イベントが地域経済の活性化に資する事業として定着するためには、地元事業者・団体等が主体的に事業運営を担うことが重要であり、ひいては地元人材の雇用創出にもつながることが期待できることから、業務の効率化も進めながら地元自走に向けた運営体制の構築を目指しております。</p> <p>また、それぞれの事業が将来的に自走できるよう、入場料の他、イベントへの参加料や民間企業からの協賛・出資などの資金を活用した事業運営を想定していることから、それぞれのイベントごとに有料化等の検討を進めつつ、弘前の新たな観光コンテンツとして定着し、雇用創出や地域の活性化に資するよう、事業の充実に努めてまいります。</p>
--	--	--	--	---